東名阪自動車道　弥富 IC・蟹江 IC に飛来・営巣する
サギと高速道路との共生に向けた活動

２０１５年活動報告

2016 年 3 月 4 日

サギと高速道路との共生を考える会合
中日本高速道路株式会社名古屋支社 桑名保全・サービスセンター
公益財団法人愛知公園協会 弥富野鳥園
日本野鳥の会 愛知県支部

****

目　次

1.　はじめに 1
2.　活動の経緯 1
3.　考える会 3
4.　サギのモニタリング調査 4
5.　道路管理及び営巣地保護活動 13
6.　路上における鳥類死骸回収数の動向 17
7.　情報発信に向けた活動 19
8.　記者発表・マスコミ報道等の記録 20

****

表紙写真　：　弥富 IC 北コロニー（撮影）新井　武夫

1. はじめに

本報告は、中日本高速道路株式会社 名古屋支社 桑名保全・サービスセンター（以下、「NEXCO 中日本」）、公益財団法人愛知公園協会 弥富野鳥園（以下、「弥富野鳥園」）、日本野鳥の会 愛知県支部（以下、「県支部」）が、2010 年 8 月 28 日に締結した「サギと高速道路との共生に向けた連携・協力に関する覚書」に基づき、連携・協力して行った 2015 年の活動内容の報告である。

（参考）覚書の概要

【目的】

NEXCO 中日本、弥富野鳥園、県支部が連携・協力して、高速道路の機能と安全を損なうことなく、サギの生息環境を保全し、自然（サギ）と人（高速道路）との共生を継続的に図っていく。

【連携・協力の内容】

① 「サギと高速道路との共生を考える会合」（考える会）を 3 者で営巣期と非営巣期の年 2 回開催し情報や意見交換する。

② 県支部は、サギの継続的なモニタリング調査を計画・実施、NEXCO 中日本は調査に協力する

③ 弥富野鳥園と県支部は、考える会で NEXCO 中日本に専門的な見地からアドバイスする。

④ NEXCO 中日本は、アドバイス等を参考に生息域の維持保全に勤める。また、実施した作業や状況を考える会で報告する。

⑤ 生物多様性などの環境教育や野鳥保護思想の普及啓発のため積極的な情報発信を行う。

図 1-1 覚書調印式 2010 年 8 月 28 日

2. 活動の経緯

東名阪自動車道の弥富 IC と蟹江 IC には、毎年春になると数千羽ものサギが飛来し、秋にかけて IC 内の園地や盛土の樹木に営巣する。

サギが営巣を始めると高速道路内への飛翔や幼鳥の路面へのはい出しを急ハンドルでドライバーが回避するなど交通安全上の問題が生じる。路上でサギがひかれるなど動物愛護上も問題である。また、走行車両や周辺民家へ糞を落とすなどの苦情が時に寄せられることもある。

図 2-1 IC 内に営巣するサギと嵩上げしたフェンス

このように道路管理上は厄介な住人ではあるが、NEXCO 中日本では、開発が進み人に追いやられたサギを高速道路が守れる貴重な機会ととらえ、高速道路の機能と安全を損なうことなくサギの生息環境を保全する共生の道を選択し、嵩上げしたフェンスに

よる生息域と道路空間の分離やドライバーへの注意喚起などの取り組みを 2010 年の飛来期までに行ってきた。その結果、2010 年のサギの路上での衝突事故事象が昨年までに比べて約 1/3 に減少するなど顕著な成果があった。

しかしながら、その後の取り組みに関しては、次のような課題が残った。

① サギの個体数や種類、営巣状況などの実態やその推移を把握するために、客観的なモニタリングを継続的に実施していく必要がある。

② 事象や環境の変化などに適切に対応し改善を図っていくためには、サギの生態などに関し専門的な見地からのアドバイスが必要。

③ 採餌環境の保全や周辺住環境への影響などについて、地域の理解と協力を得たり情報交換を行ったりする場が必要。

これらの課題に対しては、サギの生態や調査方法等に専門的知見が必要であるばかりでなく、土地利用や生活環境など地域社会とも関連していることが多く、NEXCO 中日本だけで対応するには自ずと限界がある。そこで、弥富野鳥園と県支部に共生の取り組みを共に行うことを呼びかけ、2010 年 8 月に連携・協力の覚書を取り交わし、この活動がスタートした。

2015 年は、サギの飛来から渡りまで年間を通じての活動の 5 年目にあたる。

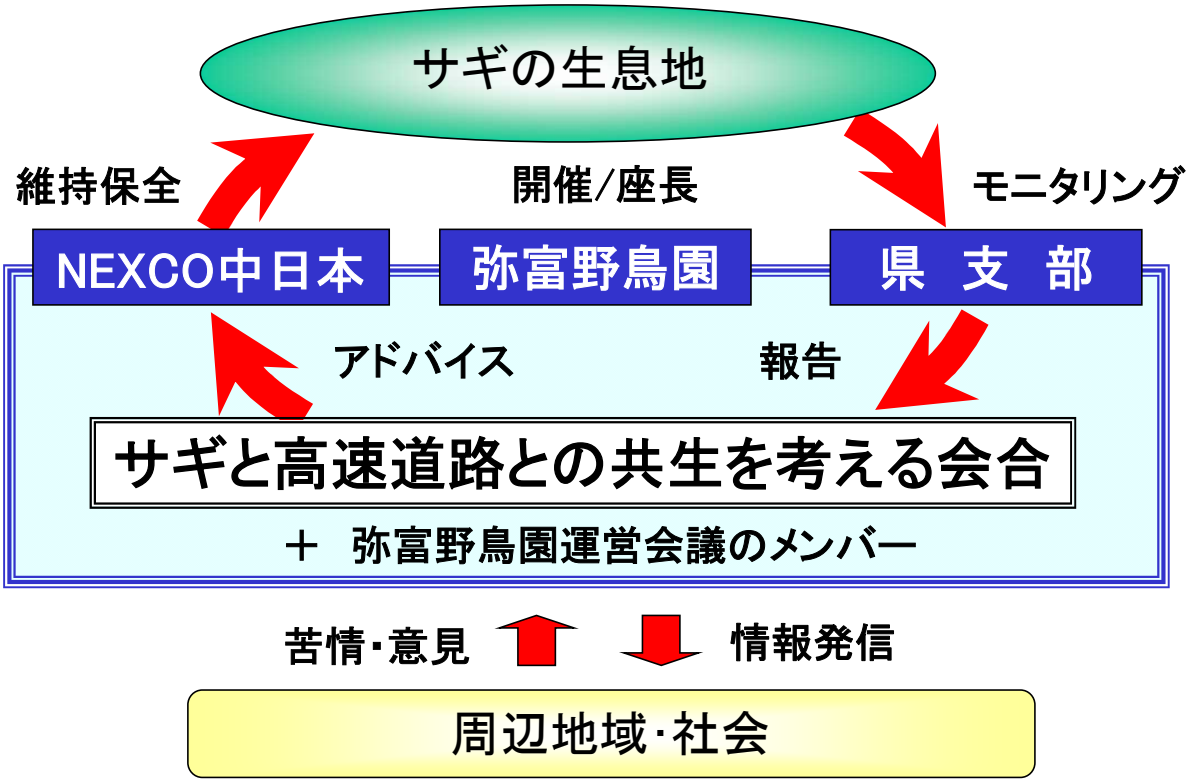


図 2-2 連携・協力した活動内容のイメージ

3.　考える会

2015 年は、NEXCO 中日本、弥富野鳥園、県支部の 3 者及び弥富野鳥園運営会議構成委員が参加し、弥富野鳥園において 3 回の会合を行い状況報告や意見交換を行った。各会の概要を表 3-1 に示す。

表 3-1 会合における議事内容

開催日	主な議事内容
第 18 回 2015 年 3 月 4 日	・2015 年モニタリング調査予定 ・2014 年活動報告（案）について
第 19 回 2015 年 6 月 24 日	・2015 年モニタリング調査計画 ・4,5 月モニタリング実施報告 ・安全対策実施状況及び予定報告
第 20 回 2015 年 12 月 10 日	・2015 年モニタリング調査報告 ・2015 年活動報告（案）について

図 3-1 考える会の会合（弥富野鳥園）

2015 年会合の出席者

愛知県環境部自然環境課　主任　多賀　潤
愛知県尾張県民事務所海部県民センター　環境保全課　技師　後藤　佳恵
愛知県海部教育事務所指導課　指導主事　前田　健治
弥富市開発部農政課　主事　萩木場　大樹（第 18 回）
弥富市開発部農政課　主事　杉本　佑介（第 19 回～）
樹木医　小堀　英和
一般財団法人東海技術センター調査分析部　小林　郁夫（第 18 回）
一般財団法人東海技術センター調査分析事業部
水環境・有機分析部門　部門長　坪井　秀樹（第 19 回～）
株式会社プレック研究所中部事務所　次長　中川　有里（第 18 回）
株式会社プレック研究所中部事務所　加藤　佐和子（第 18 回～）
公益財団法人愛知公園協会　常務理事兼本部長　牛嶋　早苗（第 19 回～）
公益財団法人愛知公園協会本部総務課　課長　東野　正之（第 18 回）

（事務局）

愛知県弥富野鳥園　所長　伊藤　元季
愛知県弥富野鳥園　主査　匹田　竜太郎
日本野鳥の会愛知県支部　支部長　高木　清和（第 18 回）
日本野鳥の会愛知県支部　会計　佐久間　淑章
中日本高速道路㈱名古屋支社桑名保全・サービスセンター　副所長　堀内　信（第 18、19 回）
中日本高速道路㈱名古屋支社桑名保全・サービスセンター　副所長　北村　暢彦（第 20 回）

4.　サギのモニタリング調査

4.1.　調査概要

飛来・営巣するサギの種類、個体数、繁殖状況などを継続的に把握し、共生に向けた活動に資する目的で、2011 年から県支部がモニタリング調査を継続して行っている。

4.1.1. 調査方法

- ➢ 調査日は抱卵・育雛・巣立ちの推移を知るため年 4 回、5 月から 8 月の第 4 土曜とした。
- ➢ 例年 9 月に行っていた調査は、抱卵育雛期をより詳細に行うため 6 月に変更した。
- ➢ 両ＩＣで同日、同時刻に調査を行った。
- ➢ 調査は次の 2 段階で行った。
- ・ 在留営巣調査：ループ内と外縁樹林帯に在留・営巣中の個体と巣を種別に数える。
- ・ 帰来調査：上記調査後、IC 周辺 5 か所で待機し各方向から帰来するサギの種と数を数える。

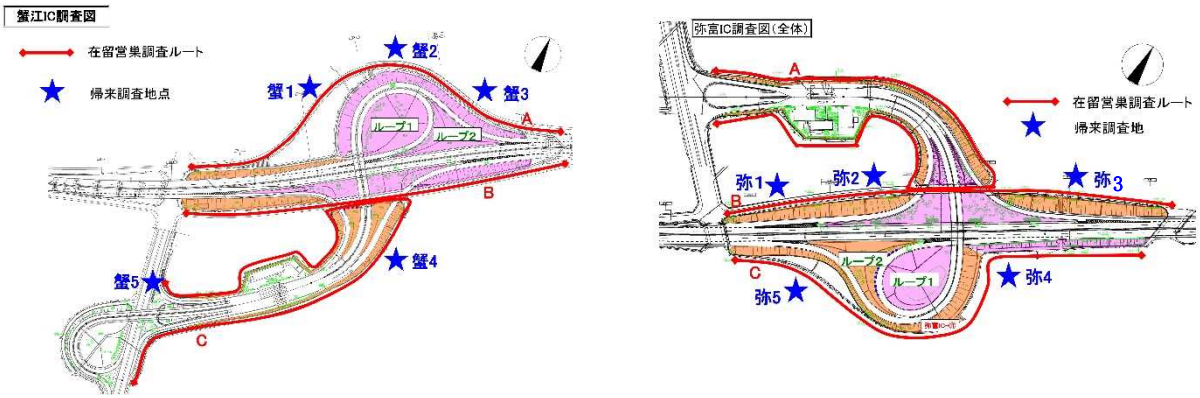


図 4-1　調査地図（蟹江 IC、弥富 IC）

4.1.1.1. 事前協議の実施

2015 年調査に先立ち、2015 年 4 月に県支部事務所において、2014 年調査の反省と 2015 年調査に向けての改善等について検討を行い、次の方針を決定した。

- ➢ 本年度も調査員の識別精度を向上する目的で勉強会を行っていく。
- ➢ 蟹江市の公民館を基地として事前の注意点や申し合わせ事項の確認、調査結果の取りまとめ等を行う。

4.1.1.2. 予備調査の実施

4 月 18 日、筑波大学院のサギの研究者益子美由希氏を迎え、学習会と予備調査を行った。学習会では、サギの生態や調査方法に関して新しい知見がもたらされた。

また、この時の調査では、蟹江 IC ループ内にダイサギ・アオサギを中心に 100 個体ほどが既に営巣に入っていた。一方、弥富 IC ではループ内ではなく IC 北側の県道沿いにゴイサギを中心に 300 個体ほどが営巣に入っていた。チュウサギは極少数、アマサギは皆無で本格的な飛来はまだ始まっていなかった。

4.1.1.3. 茨城県サギコロニーの視察

7 月 4 日、5 日予備調査に来ていただいた益子美由希氏、筑波大学徳永教授の案内で茨城県のサギコロニーの視察を行った。愛知県とは違った環境でのコロニーの状況やカイト式ラジコンによる空撮等多くの事を学ぶ事ができ、今後の調査に活かす事が出来ると思われる。

4.1.1.4. 調査方法の新たな試み

名城大学の橋本 啓史先生を中心として、夕暮れの暗い中での個体識別のために暗視カメラの活用や稲沢のコロニーではドローンを活用し地上からでは分からない様子を、上空から巣や個体数を把握する試みも行われた。

4.2. 調査結果

本年度の調査における在留・帰来数の合計は、表 4-1 の通りであった。

表 4-1 在留・帰来数

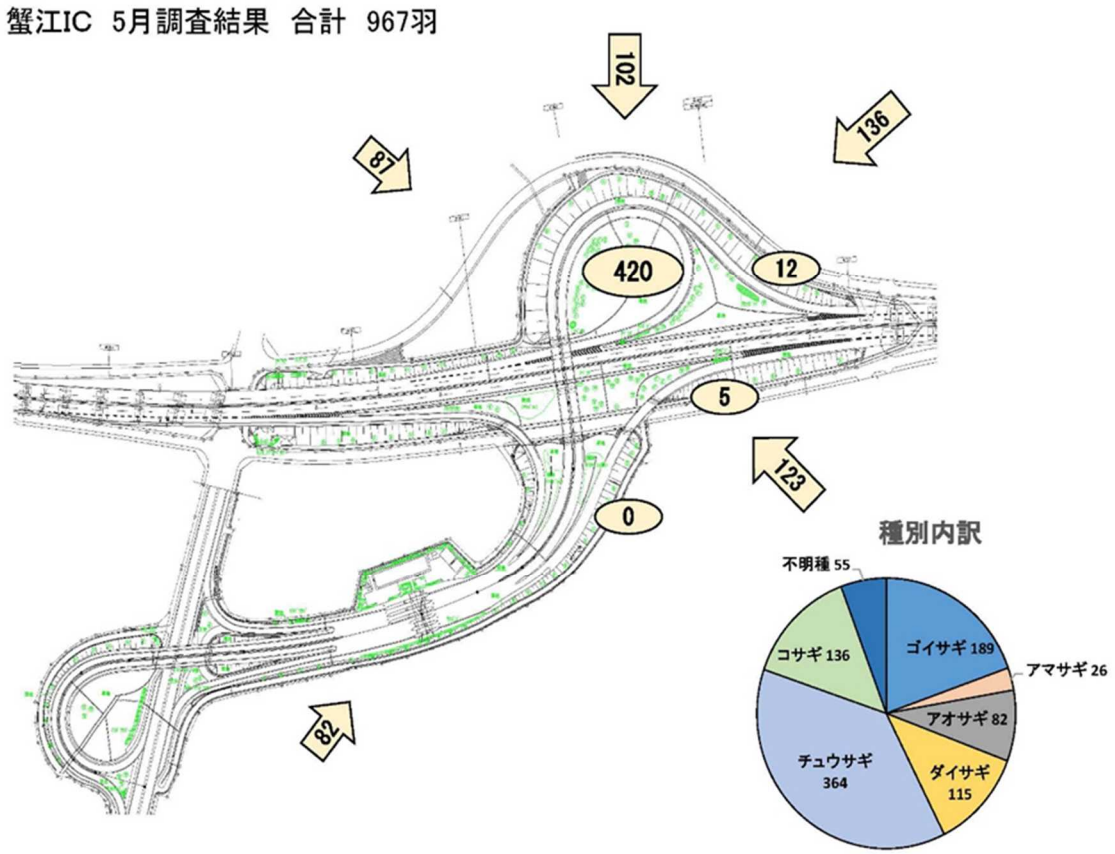
（単位：羽）

調査日	蟹江ＩＣ	弥富ＩＣ	総計
5月30日	967	819	1,786
6月20日	1,709	1,449	3,158
7月26日	2,550	2,640	5,190
8月29日	4,002	3,906	7,908

- 弥富 IC では 2013 年からループ内での営巣がなくなり、北側県道沿い斜面に集中するようになった。原因は明らかではないが、サギの飛び立ちによる車との衝突など交通安全上からループへ戻ることを期待して樹木の間伐等の試みが行われたが、依然として県道沿いにサギコロニーが形成された。
- 育雛期に入ってからではあったが、デコイによるループ内への誘導の試みが行われた。8 月の調査では 40 羽ほどが、夜間の塒としてループを利用していることがわかり、誘致の効果が期待できると判断した。

次に、月別の各 IC における在留・帰来する数と種別について、図とグラフを次ページ以降に示す。

5 月の調査では、ゴイサギは蟹江 IC、アマサギは弥富 IC に多い傾向がある。



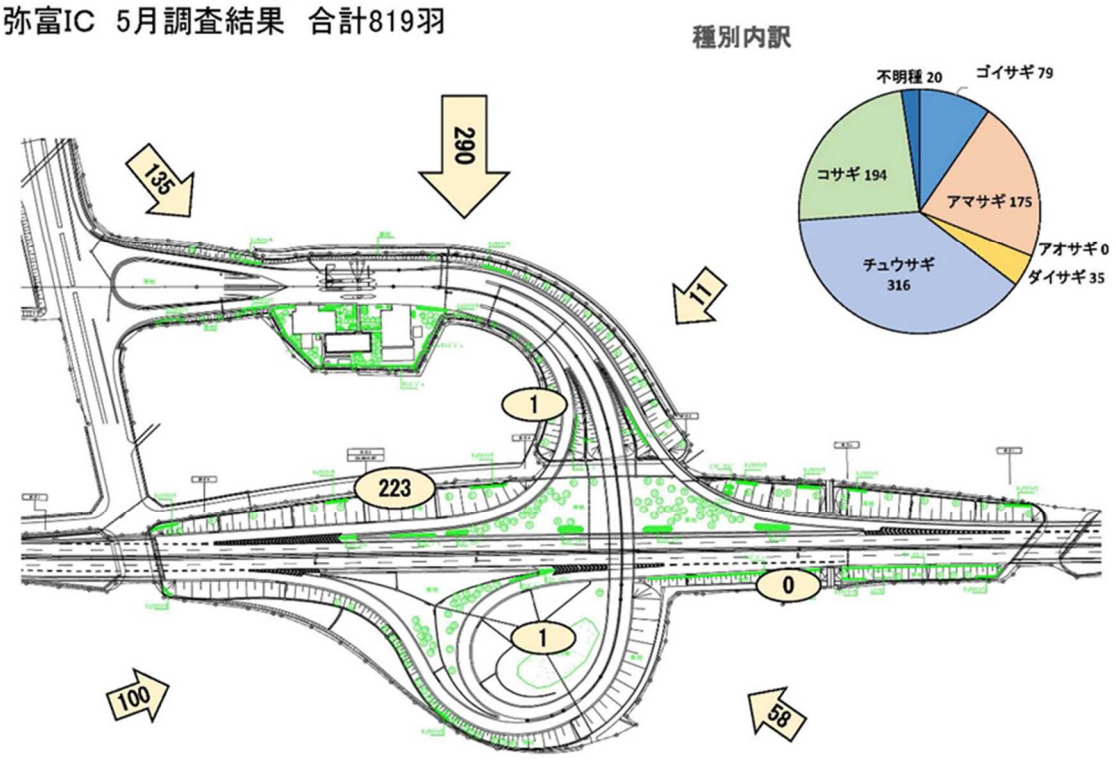
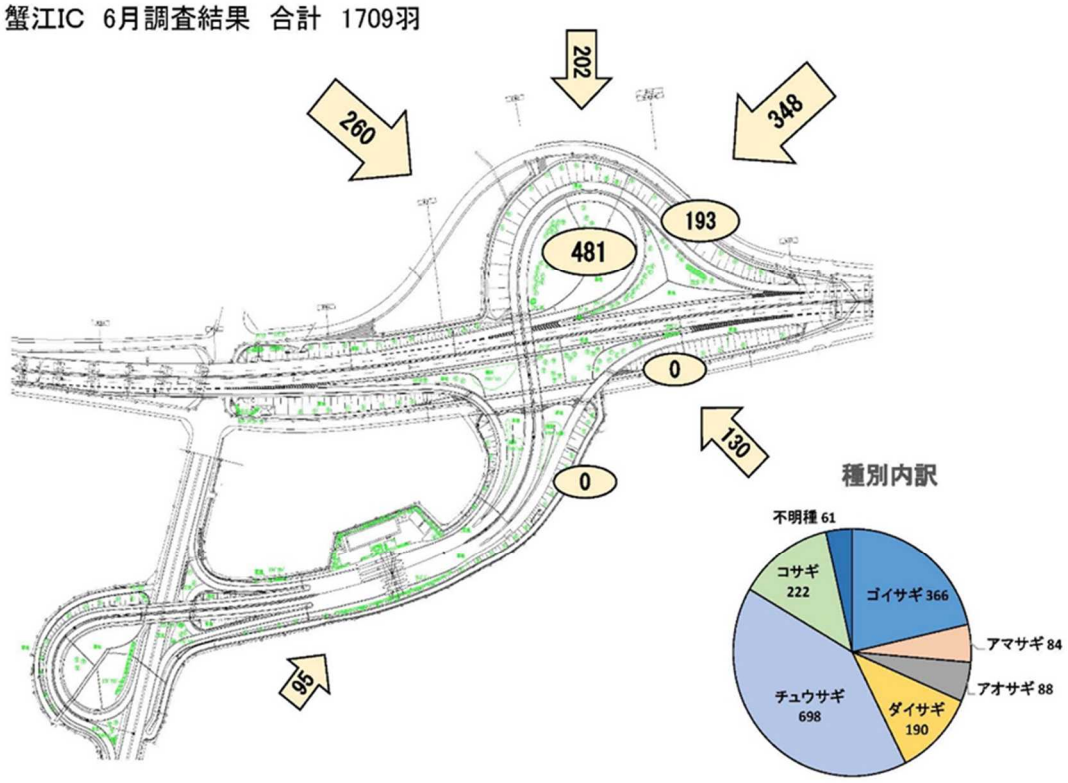


図 4-2　5 月の調査結果

6 月の調査では、コサギは弥富 IC の方が多い。蟹江 IC ではループに集まり、弥富 IC ではループを嫌う傾向がある。



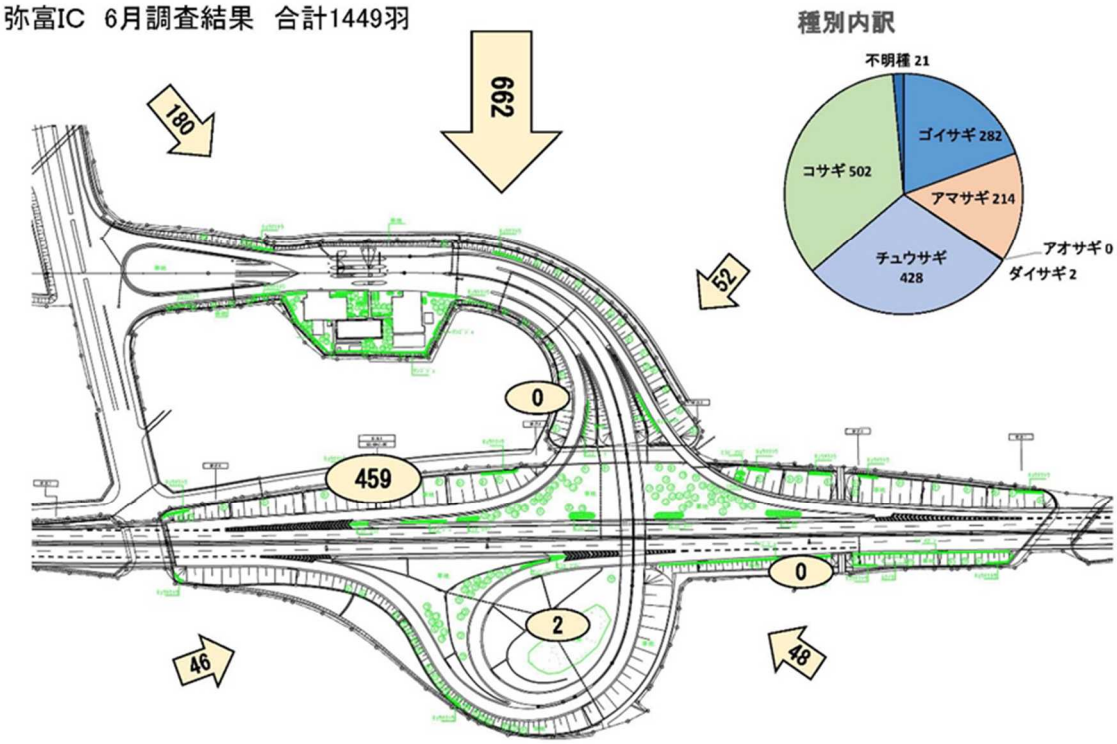
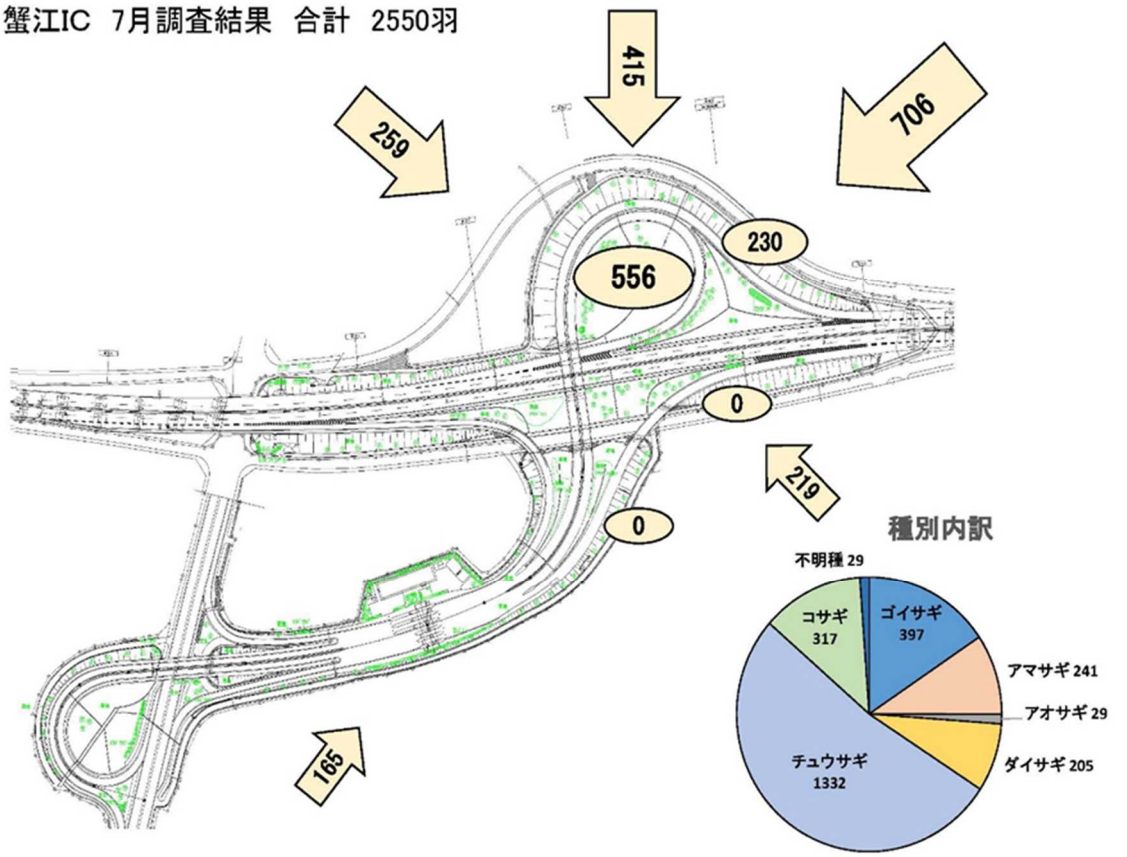


図 4-3　6 月の調査結果

7 月の調査では、ダイサギは蟹江 IC に多い。弥富 IC におけるチュウサギの占める割合が高い。



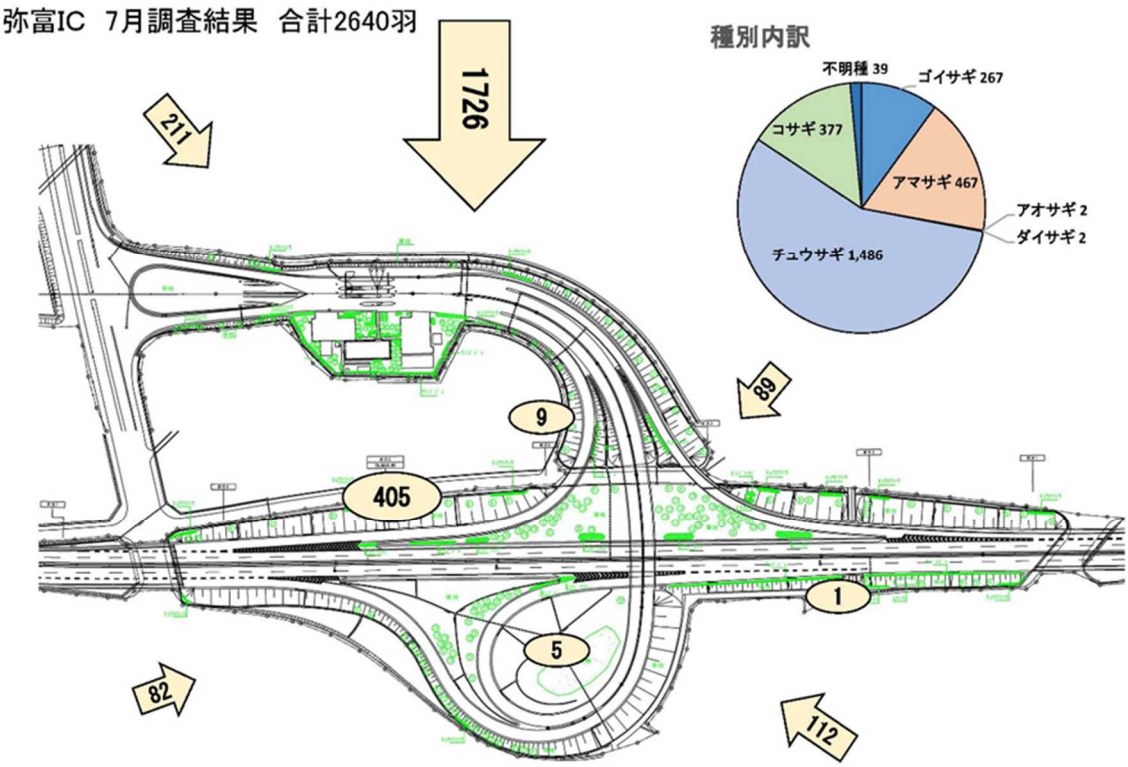
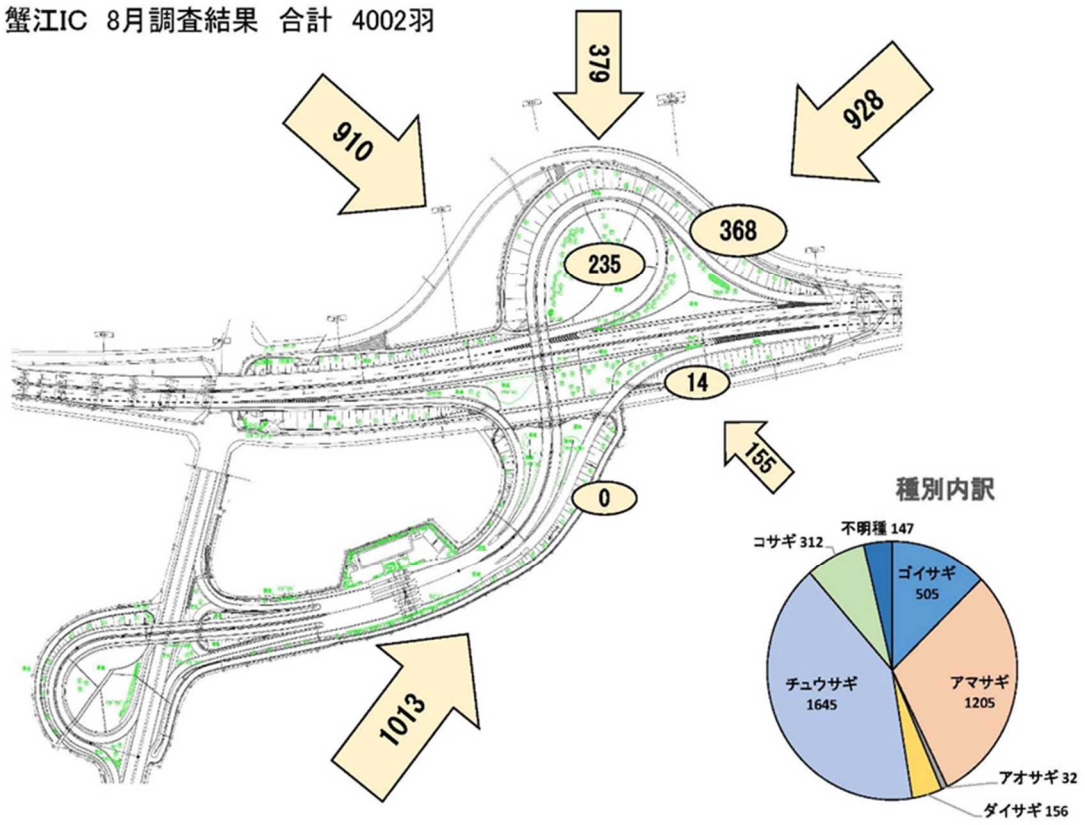


図 4-4　7 月の調査結果

8 月の調査では、弥富 IC におけるチュウサギの占める割合が 7 月より高まる。



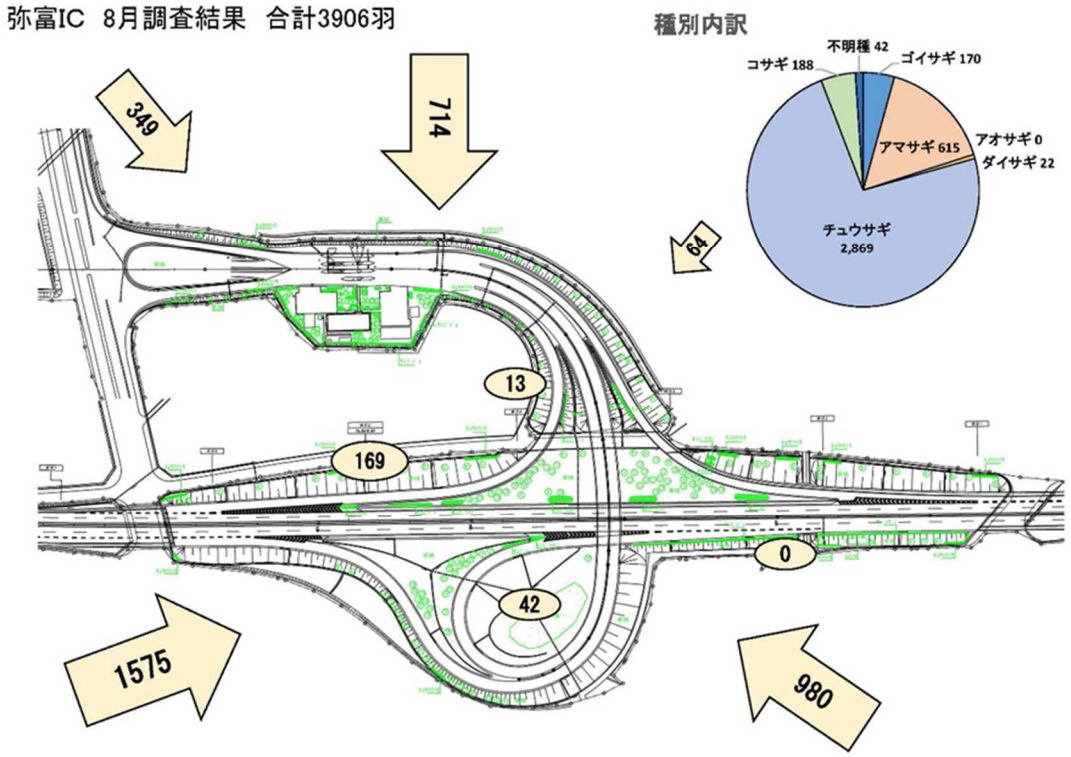


図 4-5　8 月の調査結果

4.3.　経年推移

過去４年間の月別・ＩＣ別の推移の一覧は以下の通り。

表 4-2　調査年別種別一覧　　単位:羽

5月	2012年		2013年		2014年		2015年	
	弥富	蟹江	弥富	蟹江	弥富	蟹江	弥富	蟹江
ゴイサギ	179	277	196	106	187	156	79	189
アマサギ	95	107	132	47	118	52	175	26
アオサギ	1	74	0	86	0	137	0	82
ダイサギ	38	62	24	42	30	51	35	115
チュウサギ	233	306	540	140	492	385	316	364
コサギ	210	106	96	270	237	69	194	136
不明種	6	72	195	16	37	8	20	55
計	762	1,004	1,183	707	1,101	858	819	967
合計	1,766		1,890		1,959		1,786	

6月	2012年		2013年		2014年		2015年	
	弥富	蟹江	弥富	蟹江	弥富	蟹江	弥富	蟹江
ゴイサギ							282	366
アマサギ							214	84
アオサギ							0	88
ダイサギ							2	190
チュウサギ							428	698
コサギ							502	222
不明種							21	61
計							1,449	1,709
合計	未調査		未調査		未調査		3,158	

7月	2012年		2013年		2014年		2015年	
	弥富	蟹江	弥富	蟹江	弥富	蟹江	弥富	蟹江
ゴイサギ	257	251	271	342	252	329	267	397
アマサギ	280	158	350	109	266	179	467	241
アオサギ	9	43	1	20	0	25	2	29
ダイサギ	123	260	56	261	38	144	2	205
チュウサギ	1,302	459	1,305	922	2,145	881	1,486	1,332
コサギ	446	177	297	118	261	304	377	317
不明種	80	199	36	177	2	190	39	29
計	2,497	1,547	2,316	1,949	2,964	2,052	2,640	2,550
合計	4,044		4,265		5,016		5,190	

8月	2012年		2013年		2014年		2015年	
	弥富	蟹江	弥富	蟹江	弥富	蟹江	弥富	蟹江
ゴイサギ	345	506	306	420	228	379	170	505
アマサギ	273	281	620	277	544	651	615	1,205
アオサギ	3	17	0	7	0	8	0	32
ダイサギ	251	350	37	72	19	94	22	156
チュウサギ	2,479	502	4,192	1,077	1,808	791	2,869	1,645
コサギ	650	288	175	161	296	413	188	312
不明種	720	299	70	84	0	361	42	147
計	4,721	2,243	5,400	2,098	2,895	2,697	3,906	4,002
合計	6,964		7,498		5,592		7,908	

9月	2012年		2013年		2014年		2015年	
	弥富	蟹江	弥富	蟹江	弥富	蟹江	弥富	蟹江
ゴイサギ	35	95	54	38	78	12		
アマサギ	4	333	1	879	475	0		
アオサギ	0	8	1	6	1	0		
ダイサギ	15	63	3	19	17	4		
チュウサギ	526	2,074	647	615	481	3		
コサギ	82	487	34	61	32	1		
不明種	85	20	0	322	453	212		
計	747	3,080	740	1,940	1,537	232		
合計	3,827		2,680		1,769		未調査	

前ページの表をグラフで表示すると以下のようになる。

概ね昨年までは蟹江 IC より弥富 IC の方が生息数は多かったが本年は蟹江 IC の方が多い傾向になっている。これは弥富 IC 北側県道斜面に集中した結果、オーバーフローして蟹江 IC に移動したと思われる。

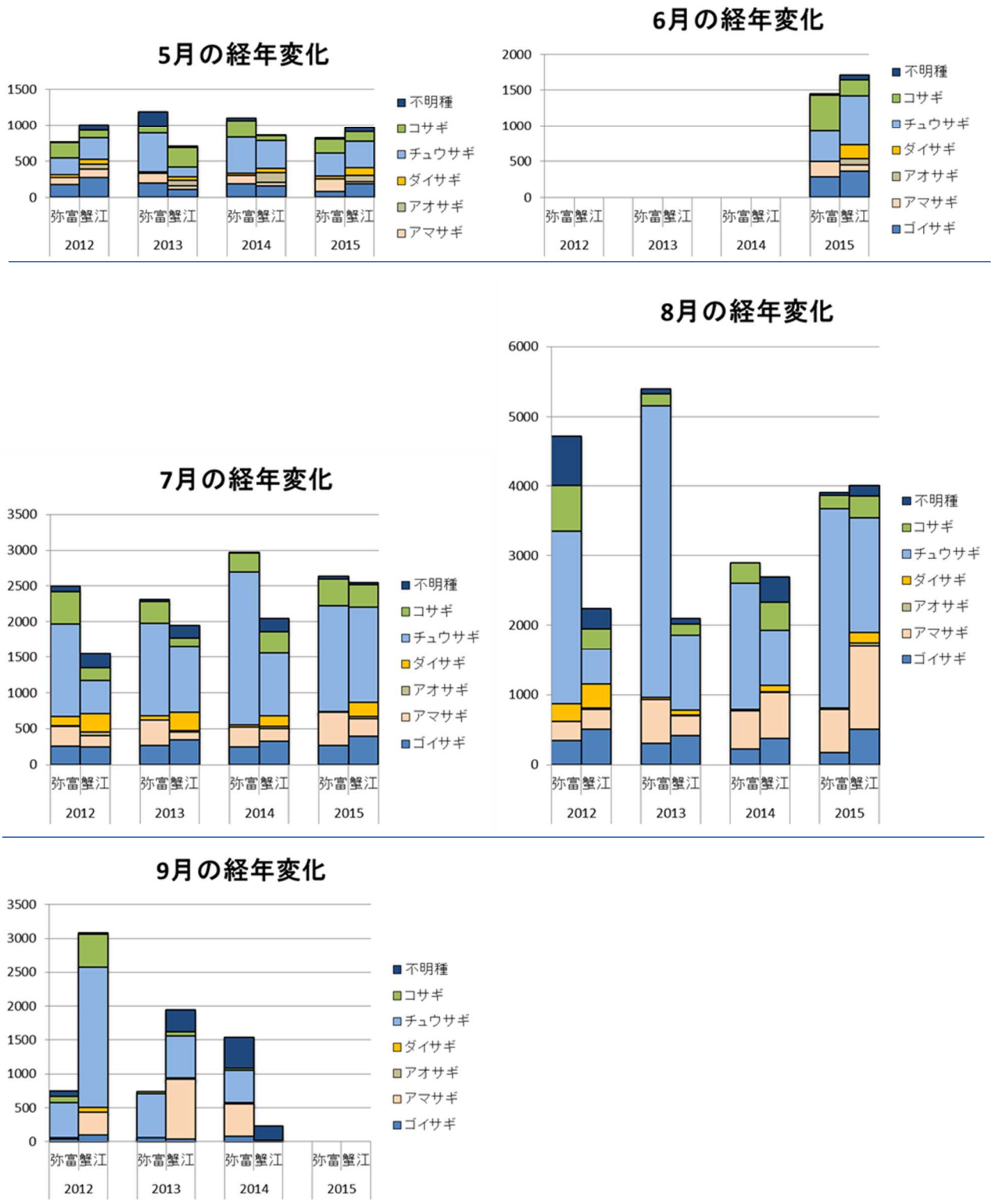


図 4-6　月別・IC 別経年変化

4.4.　本年度の課題と来年度の方針

(1) 弥富ＩＣの北側斜面における集中緩和とそれに伴うループ内への呼び戻し

本年度の結果から一般道と接する北側斜面の営巣を、ループ内へ誘導する。そのためデコイなどを用いた対策を営巣開始以前に行う必要がある。

(2) 時期に合わせた人員配置

時期により帰来数の方向は、時期より大きく変化するため、その時期に合わせた人員配置が必要となる。

(3) 調査員の定着と識別力の向上

本調査も今年で 5 年目となり、この間県支部ではサギ調査について事ある毎に調査結果の発表などを行い、調査員の募集も続けてきた。その甲斐あって本年新たに加わる人が多く、調査員は 60 名近くとなり、世代交代が進みつつある。今後は調査員の定着と識別力の向上が求められる。

5.　道路管理及び営巣地保護活動

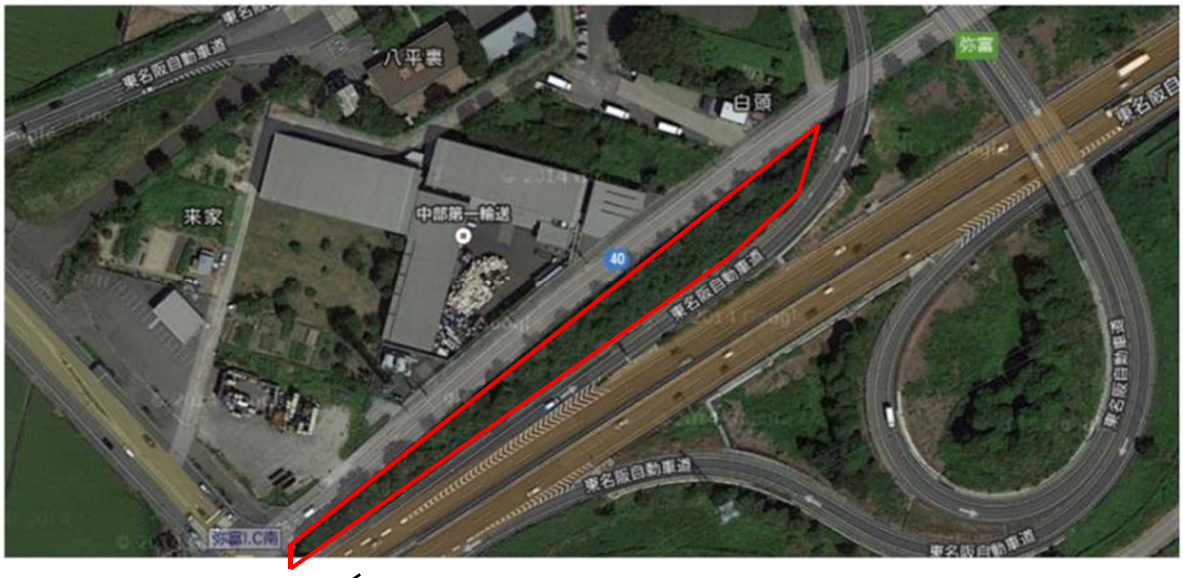
5.1.　弥富 IC 北側区域の営巣集中対策

弥富 IC 北側区域の高速道路斜面に営巣が集中していることが確認されたため、例年実施している隣接県道への飛び出し対策なども含め、以下の対策を講じた。

(1) 草木管理

- 県道沿い立入防止柵際の樹木の伐採、剪定及び草刈り範囲の拡大。
- 作業期間… 2015 年 2 月下旬～3 月上旬

名古屋 ↗



亀山 ↙

図 5-1　草木管理範囲

施工前　　施工後

図 5-2　草木管理施工状況

(2) 県道走行ドライバー向けの『鳥飛来注意』看板の設置。

・ 設置日…2015 年 7 月下旬

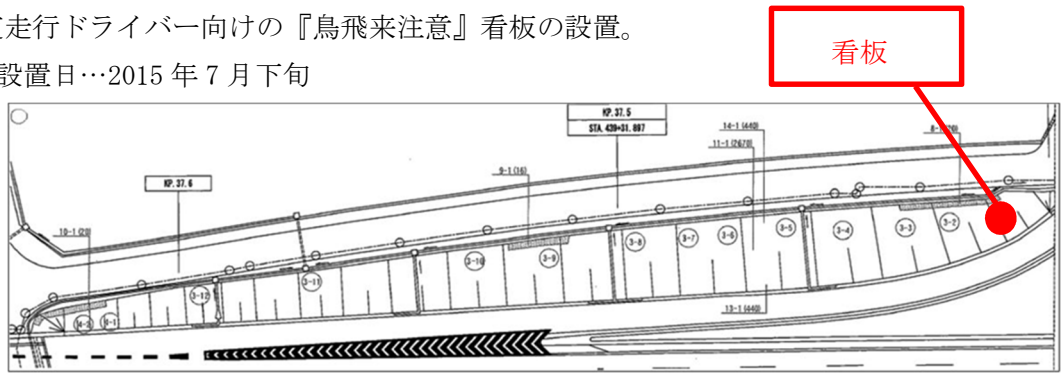


図 5-3 看板設置位置

施工前　　施工後

図 5-4 看板設置状況

(3) 県道沿い立入防止柵への止り木化防止器具の設置。

・ 設置日…2015 年 8 月中旬、9 月下旬

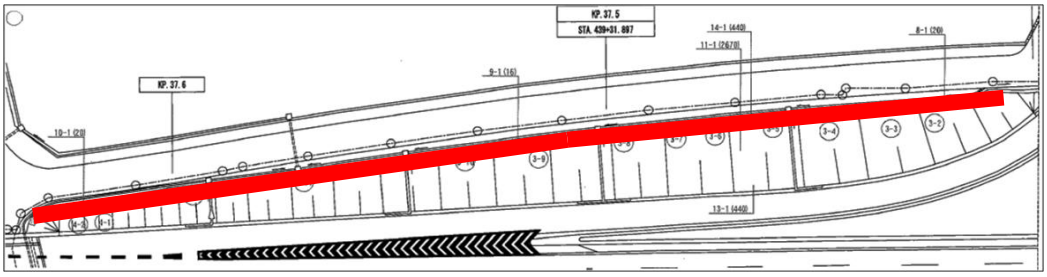


図 5-5 器具設置位置

施工前　　施工後

図 5-6 器具設置状況

(4) 高速道路ガードレール下に幼鳥這い出し防止ネット応急設置。

・ 設置日…2015 年 7 月～8 月

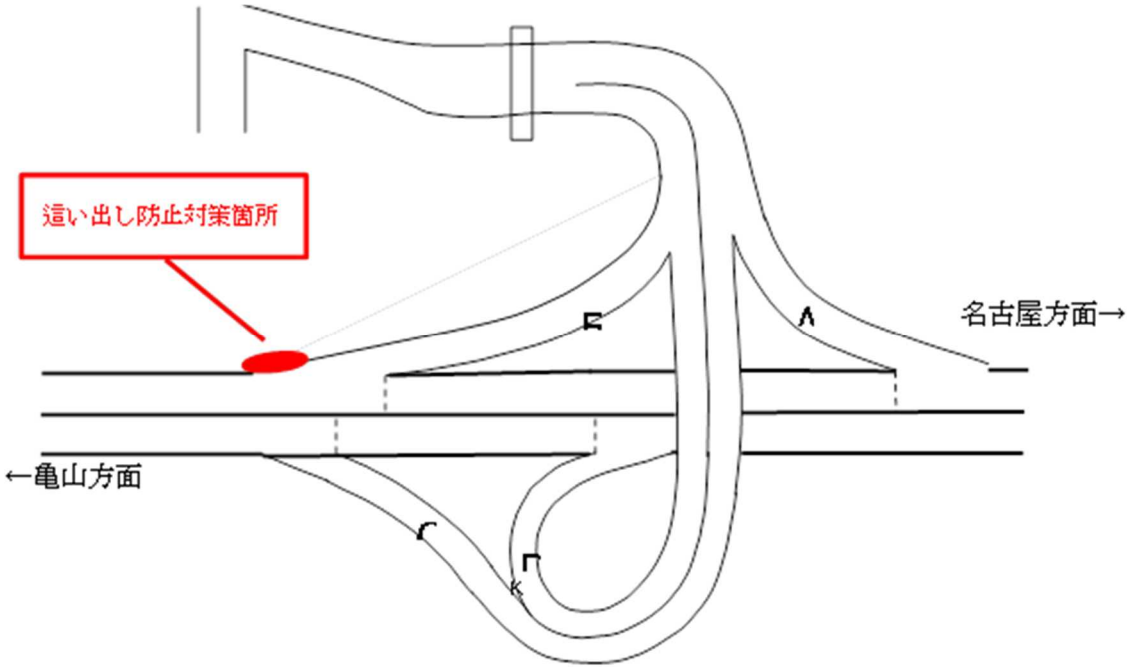


図 5-7　這い出し防止ネット設置位置

施工前

施工後

図 5-8　這い出し防止ネット応急設置状況

(5) 過年度に営巣が多く確認できた弥富 IC ループ内にデコイを設置

・ 設置日…2015 年 7 月～8 月

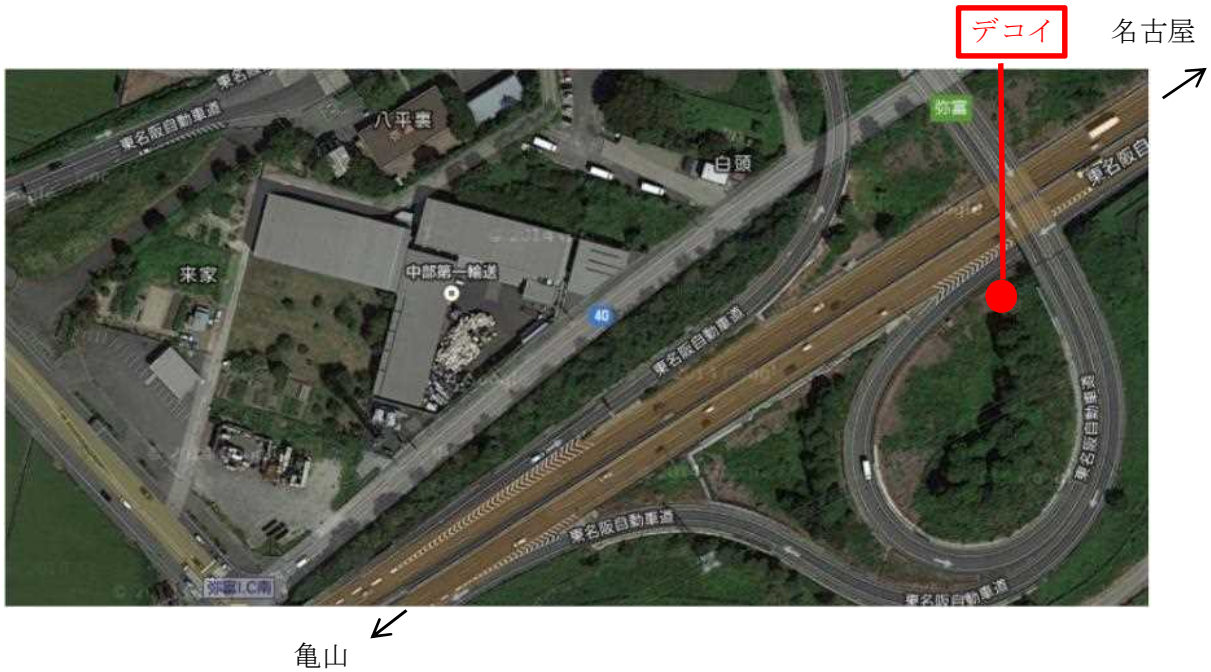


図 5-9 デコイ設置位置

図 5-10 デコイ設置状況

5.2.　来季飛来前に向けた取り組み

(1) 弥富 IC

今季、弥富 IC 北側区域における営巣集中対策の一つとして、弥富 IC ループ内にデコイを設置したが、営巣後の実施となったこともあり、全体的に顕著な効果が認められなかった。来季は、例年通りの高速道路脇における樹木伐採、剪定、草刈に加え、北側区域の県道に近接する樹木の伐採、剪定、また、飛来前より、デコイ対策を行い、飛来状況の変化を確認する。また、応急的に設置した高速道路ガードレール下への幼鳥這い出し防止ネットをフェンスと共に本格設置する。

(2) 蟹江 IC

例年通りの北側区域及び高速道路脇における樹木伐採、剪定、草刈に加え、名古屋方面流入ランプ端部にフェンスと幼鳥這い出し防止ネットを設置する。

6.　路上における鳥類死骸回収数の動向

NEXCO 中日本では、2010 年のサギの飛来に先立つ 2010 年 1 月～2 月に、以下の共生に向けた抜本的な取り組みを行った。

- 道路機能上支障のない範囲でサギの生息領域を設定
- 生息領域のフェンスによる囲い込みとフェンスの嵩上げ（2.5m→4.5m）
- 道路隣接部の樹木の剪定、防草シート設置による生息領域と道路との分離・明確化

サギが飛翔中に車と衝突したり、ヒナが道路にはい出して車に轢かれたりする事象を、交通管理隊（黄色パトロールカー）の道路巡回時に路上障害物として回収した鳥類の死骸数で把握している。

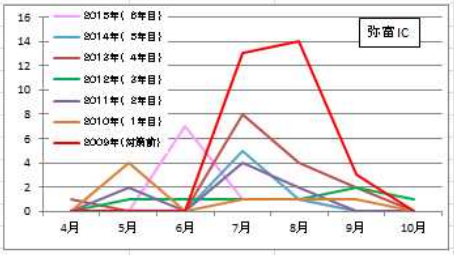
これによると、上記の抜本的な取り組みを行う前の 2009 年の死骸回収数（グラフ**赤線**）と比較して、取り組み後の 2010 年以降の回収数は、下表のとおり大きく減少しており対策の効果が顕著に認められる。

ところが 2013 年は、2010 年にフェンスの囲い込みや嵩上げ等の抜本的対策を行って４年目となるが、対策を行って以降で最も多い死骸回収数となった。このことより、対策強化として、飛来前に念入りに道路空間との隣接部の枝剪定、枝払いを実施するとともに、フェンス下部の這い出し防止対策用のネット損傷箇所の更新を行った。

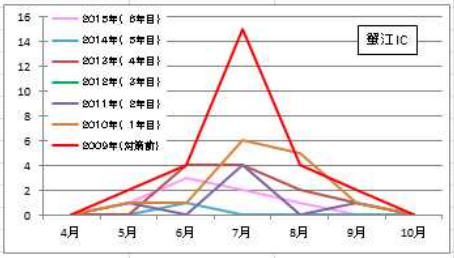
2015 年は弥富 IC と蟹江 IC の合計死骸回収回数が 2014 年と比べ増加しているが、主な要因としては、弥富 IC 北側県道区域付近の死骸回収回数が 8 件あり、本文 5.1.(4)に示すとおり幼鳥這い出し応急対策を行った。

路上での鳥類衝突事故状況

弥富IC	弥富IC(37.0KP～37.7KP+ランプ内)							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
2015年(6年目)	0	0	7	1	1	0	0	9
2014年(5年目)	0	0	0	5	1	0	0	6
2013年(4年目)	1	0	0	8	4	2	0	15
2012年(3年目)	0	1	1	1	1	2	1	7
2011年(2年目)	0	2	0	4	2	0	0	8
2010年(1年目)	0	4	0	1	1	1	0	7
2009年(対策前)	0	0	0	13	14	3	0	30
2015－2009(対策前との比較)	0	0	7	−12	−13	−3	0	−21
2015－2014(前年度との比較)	0	0	7	−4	0	0	0	3



蟹江IC	蟹江IC(31.7KP～32.3KP＋ランプ内)							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
2015年(6年目)	0	1	3	2	1	0	0	7
2014年(5年目)	0	0	1	0	0	0	0	1
2013年(4年目)	0	0	4	4	2	1	0	11
2012年(3年目)	0	0	0	0	0	0	0	0
2011年(2年目)	0	1	0	4	0	1	0	6
2010年(1年目)	0	1	1	6	5	1	0	14
2009年(対策前)	0	2	4	15	4	2	0	27
2015－2009(対策前との比較)	0	−1	−1	−13	−3	−2	0	−20
2015－2014(前年度との比較)	0	1	2	2	1	0	0	6



合計	弥富IC ＋ 蟹江IC							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
2015年(6年目)	0	1	10	3	2	0	0	16
2014年(5年目)	0	0	1	5	1	0	0	7
2013年(4年目)	1	0	4	12	6	3	0	26
2012年(3年目)	0	1	1	1	1	2	1	7
2011年(2年目)	0	3	0	8	2	1	0	14
2010年(1年目)	0	5	1	7	6	2	0	21
2009年(対策前)	0	2	4	28	18	5	0	57
2015－2009(対策前との比較)	0	−1	6	−25	−16	−5	0	−41
2015－2014(前年度との比較)	0	1	9	−2	1	0	0	9

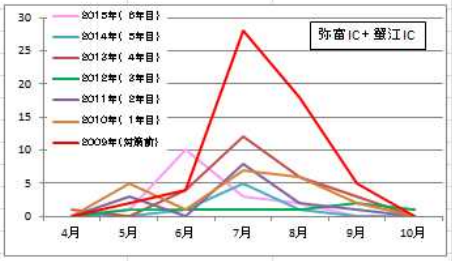


図 6-1　高速道路上での鳥類衝突事故状況

7.　情報発信に向けた活動

7.1.　集会・誌上での発表・発信

県支部では 2014 年の調査終了後から、機会あるごとに本調査の発表をしている。主なものを下記に示す。

(1) 2014 年 11 月（於；名古屋工業大学　参加者 50 名）
日本野鳥の会・バードリサーチ主催「モニタリング 1000 説明会」において「弥富・蟹江 IC サギとの共生に向けた取組」を発表

(2) 2015 年 1 月（於：なごや生物多様性センター　参加者 30 名）
なごや生物多様性保全活動協議会定例会において「愛知はサギ天国？」として本調査の取り組みと愛知県におけるサギの生息状況を発表

(3) 2015 年 6 月（公益財団法人日本野鳥の会発行会報誌「野鳥」）
全国の支部活動紹介として「夢はサギサミット開催」と題してネクスコ中日本との共働による活動を紹介

(4) 2015 年 11 月（於；名古屋学院大学　参加者 45 名）
公益財団法人バードリサーチ主催「バードリサーチ名古屋大会」において「市民を巻き込んだ調査」を発表

8.　記者発表・マスコミ報道等の記録

日　付	発信・報道媒体等	内　　容	備考
2008. 5.18	中日新聞 （尾張版）	蟹江と弥富 IC に野鳥集合　～環境変化で追いやられ～	
2010. 5. 8	中日新聞 （尾張版）	アオサギ大量出没　～公園、神社で糞や鳴き声被害～、一宮:傷む名木　弥富・蟹江:共生の試み	
2010. 8.24	記者発表・NEXCO 社長定例会見	3 者連名による調印式のお知らせ	
2010. 8.28	覚書調印式	取材（5 社）:CBC,中京 TV、読売新聞、中日新聞、日刊建設工業新聞	調印式後に現地案内
2010. 8.28	CBC 夕方のﾆｭｰｽ	調印式のみ	
2010. 8.28	中京 TV 夕方のﾆｭｰｽ	調印式及び現地映像	
2010. 8.29	中日新聞 （愛知総合）	サギ保護の覚書調印	
2010. 8.29	読売新聞 （愛知版）	東名阪弥富、蟹江 IC で集団営巣のサギ環境保全へ覚書調印　～年２回の会合開催など～	COP１０関連記事
2010. 8.30	CBC 夕方のﾆｭｰｽ	現地映像紹介	
2010.10. 9	日本経済新聞 （中部経済欄）	COP10 が開幕　～環境重視、企業も足並み～ 野鳥のサギ繁殖エリア（中日本高速）	一事例として紹介
2010.10.22	読売新聞 （中部経済欄）	企業発！COP10 サギと道路　共生図る	一事例として紹介
2010.10.26	NHK おはよう日本 全国向け	サギとの共生の取り組みを、現地映像を交えて紹介（COP10 関連）	10/6 取材対応
2011. 3.23	記者発表・NEXCO 社長定例会見	「考える会」による「高速道路がサギのすみかになったわけ」の制作発表	
2011. 4.28	朝日新聞 （愛知版）	サギとの共生考えて　中日本高速や県支部、冊子 5000 部小学校と図書館に	
2011. 7.21	NEXCO 社長 定例会見	海部県民センター主催自然体験教室、弥富市主催自然体験セミナーへの協賛・協力	
2011. 7.26	中日新聞 （尾張版）	生物多様性学ぼう　海部県民センター サギ観察会や木工工作　親子向けの催し	
2011. 8.13	ｸﾛｰﾊﾞｰTV （ｹｰﾌﾞﾙTV）	自然体験教室のサギ観察の様子をテレビ取材	
2011. 9. 1	中日新聞 （尾張版）	サギ増加 6000 羽に　～フェンス内の茂みは“楽園”～　野鳥の会県支部調査	
2012. 7.19	NEXCO 社長 定例会見	海部県民センター主催自然体験教室、弥富市主催自然体験セミナーへの協賛・協力	
2012. 8.5	ｸﾛｰﾊﾞｰTV （ｹｰﾌﾞﾙTV）	自然体験教室のバスに同乗しテレビ取材	
2012.10. 5	TV 朝日（ｽｰﾊﾟｰJﾁｬﾝﾈﾙ）全国向け	津波で営巣地を失ったサギによる住民への影響が深刻な宮城県亘町と対比し、その解決法の一つとして共生への取り組みを紹介	
2013. 7.28	ｸﾛｰﾊﾞｰTV （ｹｰﾌﾞﾙTV）	自然体験教室のテレビ取材	
2014. 5.20	読売新聞 （愛知県版）	サギと東名阪道の共生状況について（安全対策など）	
2014. 5.27	名古屋ﾃﾚﾋﾞ 「ﾄﾞﾃﾞｽｶ」	サギとの共生活動に関する取材	
2015. 8. 9	CBC ﾗｼﾞｵ 「夏休み企画」	夏休み特別企画　サンデー・レポドラにて「鳥飛来注意」の標識などサギとの共生に関する取材	